

氷川瑣言

比路志生

要寨を造るよりも先づ道路を

要寨を造るよりは鐵道を敷けと遺言した獨逸の有名なる將軍があつたが更らに吾人は「要寨を造るよりは道路を造れ」と言ひた。佛國のマジノ線が容易に敗れたのは獨逸の軍用道路の爲めだつた、戰爭の限りに於て交通施設、運輸機關、道路の完備、輸送力の確保が軍需補給上如何に大切であるかは察するに餘りがある、戦時に於ても平時に於ても交通の圓滑、輸送の補給、軍の快速行動が如何に緊急であるか言はずもかなである、夫れであるのに強ひて道路の完備を強調する論者少なきは如何なる理由に基くものなりや吾人は慍しむ、斯の如きの不合理が存すべき筋合なるや乞ふ三考四思せられよ。

交通道德の實踐に緊張を加へよ

最近の交通機關の状態を視るに無暗矢鱈に乗物を利用し、急ぎもしないに電車やバスに乗り、他人の迷惑を省みず無關心にも自己本位で出入の便を得んとして出入口を占領する、買ひ漁りの爲めに満員の電車バスに乗り、實際已むを得ざる乗用者の妨害を來たしても平氣でおる等々實に嘆かほしき至りである、緊張感を強調し、戦力増強を口にする連中もいざとなれば電車、バスの利用にさときこ蛇の如きものである、之れでは何程の程度で戦時生活上の緩和が出来るか、相互間の調和は何處に求め得らるべきか噓

戦時は戦時らしく生活せよ

戦時には戦時の姿があらねばならぬ、平時の夫れとは違つた姿が要求されるのである。平時に於ても奢侈や遊惰や安樂や無爲やじだらくやは禁物であつて人間は休むが必要だとは沙汰の限りで常に緊張した氣分でゆるみなき心構で生活せねばならぬが、戦時

に在つては殊更に戦時らしい緊張さをもつて生活することが緊要である、緊張味なくして何んで勝ち抜くことが出来やう。例へば宗教家でも精神的方面に働く者でも戦時にあつては自らも緊張し、他をして緊張せしむるの努力と勤勉と熱意とを望まざるを得ない平時の如く穩和否だらりとした説教や教説のみを以て能事終れりとするが如き心得であることは痴愚の至である、斯の如きの徒輩は寧ろ隱退閑居すべきであらう。學生としても夏季休暇を平時の如く消過することなく身を勤勞態勢におき戦時氣分を緊張さすべきであらう、さなくば寧ろ休暇全廢すべしだ。官吏亦然り暑休など毫も考ふべき秋でない、たゆまず、うまず怠らず、努力奉公すべきである、だが形式に捕はるるが如きは慎しみ戒しめ要は衣食住は勿論精神界に於ても戦争の眞只中に在り、戦争する心構を把握し眞に緊張敢闘の氣魂に滿ち之を實踐に現はさなければならぬ、眞の戦争意識と敢闘精神は斯くして表現さるるのであらう。

地方行政協議會に何を求むべきか

地方行政協議會といふ制度は新らしく且行政例のなき措置に出でたるものである。此制度は人の爲に設けたる機構でなくて實際の必要に應じて生起したるものと視なければならぬ、例令ば府縣が産物は其の境界を越ゆるを許さずといふ標語を以て府縣外輸出を制止し所謂府縣の割據を事としたが此割據を打開する爲め且は

食糧其の他生活必需品増産の爲に必要に迫られて此協議會制が定められたものである、其處には生産物の供出とか勞務の提供とか少くとも一區域内府縣に於て有無相通じ、率ゐては他の區域の府縣に及ぼさしむる趣向である。要は新制度を如何に運用すべきか、何んといふても居ながらにして活潑に動くものでなく、黙して制度が自ら働くものでもない。制度は之を活かすも殺すも運用する人に依るものである。折角制定せられた新制度が無效果に終ることなく克く活用せられて國民が其の惠澤に浴せんこととなるべきを念願する次第である。

米の確保と清酒の禁造

米麥の他に甘藷がある。馬鈴薯がある、里芋がある、我が邦の綜合的食糧は餘裕ある事情で非觀すべきでない、然し何んと云ふても米を主食とする食慣習を一舉に改めることは至難である、従て米の需用高は依然として食糧問題解決の根幹を爲すものたるは言を待たない。其の對策として米の増産が何よりも要求せらるる實に無理ならぬ要求である、だが諸種の事情が耕地面積を加速度に減少する。勞働力は不足する、夫で米産の増産を困難ならしめておる。そこで本年度の如き清酒の百三十九萬石の製造を禁止し、合成酒を政府の專賣として、粗製濫造を防げば他面酒糧用の優秀なる杉材を造船材として轉用し得べくして一石二鳥の効果あらし

め、節米節材大に著しきものがあらうと論ずる者がある、御尤も至極である、明論といふべきか。

老人無用か、敬老は孝道の基にあらざるか

年齢奉還論といふ何んのことか、凡そ人六十歳を超ゆるとどうも活動力が鈍り引込思案の者が多い、それでは決戦時下銃後國民の歩むべき途でない、須らく二、三十年年齢を奉還し青年壯年者と伍すべきだといふのである。視よ曩日授賜せられた文化勳章は三十七歳の湯川博士を除きては其の受章者は七十有餘歳のものがある、高野山に斷食祈願を遂行したるは七十歳の老僧である、印度獨立の旗頭は七十餘歳のガンヂー翁である、實に老人無用を唱ふる者は唯物史觀的思想家であるとも謂へる。老人とてあながち無用者のみでない、老人を敬するは孝の始である、孝道の基である。忠誠を誓ふ心は孝道の徹底に在る、敢て老人を輕視し無用視することなかれ矣。

物資配給には尙一工夫を要す

配給物資の杓子定規に付いては各方面から指摘されて來たが、一向に改められた事を聞かないが、たとへば農村の味噌仕入れには糶を使用しないのか、わらず、貴重なる米と欠乏せる勞力とを費やして造つた糶が配給された、都會地の必需品たる糶が其の

都會に配給されず、不需用地たる農村に却つて特配されることや、堆肥や刈敷やを肥料として來た山間僻地にも統制上反別割に應じて全肥を強ふて配給することや、禁酒主義者に酒の配給を爲すこと等々は統制上の缺點とも短所とも言ひ得るのである。一粒の米、一握の金肥、一杯の酒も涕の出づる程に貴び、戦時下の事でもあつた何と統制上配給に一と工夫ありて然るべきものと思ふ。

特命行政考查は唯妙案としてはならぬ

特命行政考查が大藏省に創設せられ、既に施行せられた、其の實績如何は吾人の窺知するを得ざる所なるが、中央の行政方針が當を得ておるか、地方廳に中央の方針が滲透せるか、地方廳の措置が不當なるか、民間との連絡は充分に行き届いておるか將又中央本省自體に於いて部局間の脈絡調整が遺憾なく行はれておるか、各省間の調節連絡が缺くる處なきか一々列擧するまでもない、之等に就いて篤くと查察するの要なきか否や省みて查察するの要なきか、折角の妙案も唯妙案に終ることなきを祈る。

